

### 1. 授業のねらい・概要

現代の社会では、ビジネス活動や社会活動を効率的に行うためには情報活用は必須である。情報は様々な活動の意思決定に利用され、その源泉はデータベースにある。私たちの身のまわりに使われているデータベースとして住所録があり、企業においては顧客データベースや商品データベースがあげられる。情報をビジネス活動の道具として効果的に活用するためには、活動に必要なデータをその目的に合った内容、形式で蓄積し、容易に利用できるようにする必要がある。

ユーザが目的に合ったデータを蓄積し、利用できるデータベースを構築するため、データモデリング手法、およびデータベース言語である SQL 言語を学習する。さらに、大規模情報システムで利用されるデータベースの運用と保守に関する基本的な知識や技術を習得させる。

### 2. 授業の進め方

講義とコンピュータによる実習を組み合わせで行う。また、事例に基づいてデータモデリングの小演習を行う。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 正規化理論演習
2. データベースの基礎	10. 関係演算
3. データベースの構成	11. SQL 言語の概要
4. データベースの種類	12. SQL 言語の文法
5. データモデリング	13. データベース操作言語・定義言語
6. 論理データモデル	14. 大規模情報システムにおけるデータベース
7. 概念データモデル	15. 大規模情報システムの運用と保守
8. 正規化理論	

### 4. 到達目標

リレーショナルデータベースの仕組みや、データベースの概念が理解できるようになること。

### 5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

リレーショナルデータベースを理解するため、データベース演習を履修すること。

### 6. 成績評価の方法・基準

受講態度、実習課題の成果物、期末試験を総合して評価する。

### 7. テキスト・参考文献

テキスト：谷尻かおり「改定新版 データベース基礎の基礎」、技術評論社、2009年

### 8. 受講上の留意事項

日ごろからデータベースの活用について関心を持つこと。わからないところは積極的に質問して下さい。